

パソコンからの個人情報流出をストップ!

# ウイルスバスター2005 インターネットセキュリティ

トレンドマイクロ株式会社 <http://www.trendmicro.com/jp/products/vb2005.htm>

赤いパッケージでおなじみの総合セキュリティ対策ソフト「ウイルスバスター」がバージョンアップし、「ウイルスバスター2005 インターネットセキュリティ」となった。新しいバージョンは、現在のネット事情を反映して、ユーザーにとってもっとも気がかりな部分にフォーカスして、機能が強化されている。

## 許可していないウェブサイトへの個人情報送信を監視して遮断する

日本でも被害報告が増えるにつれて多くのユーザーにとって不安の種となっているのが、フィッシング詐欺だ。ウイルスバスター2005では、このフィッシング詐欺を防止するため、個人情報保護機能が新たに加わった。この機能は、自分の氏名やクレジットカード番号などの流出を避けたい情報と、普段から使っている銀行や通販などの許可したいウェブサイトをあらかじめ登録しておく、登録した個人情報が許可していないウェブサイト

送信されそうになると、直ちに通信を遮断してユーザーに対して警告するものだ。この時点でユーザーは、そのウェブサイトがフィッシング詐欺かどうか、再確認することが可能になる。この機能はウェブサイトだけでなく、メールやインスタントメッセージなど、ほとんどのインターネット経由の通信に対応している、広く活用できる。

また、個人情報の流出といえばスパイウェアも気がかりだ。従来バージョンではスパイウェアの検出だけが可能だったが、このバージョンでは駆除にも対応している。

## 家庭内などでのセキュリティを強化 LAN内のパソコンをまとめて管理可能

特に目新しい機能が「ホームネットワーク管理」だ。LAN内にウイルスバスター2005をインストールしてあるPCが複数台あると、それぞれのPCが自動的に通信を行い、お互いのセキュリティ状態に

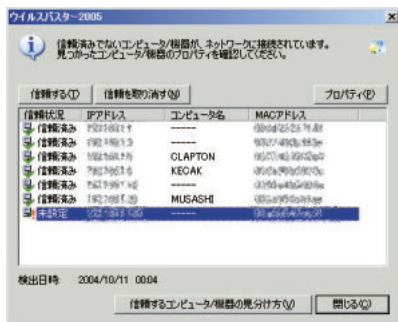
製品名	ウイルスバスター2005 インターネットセキュリティ
会社名	トレンドマイクロ株式会社
価格	パッケージ版：8,925円 / ダウンロード版：5,250円(ともに税込)
動作環境	OS：ウィンドウズ98SE/Me/2000 Professional/XP、ブラウザ：インターネットエクスプローラ6.0 SP1以上

関する情報を共有し合う。これによってLAN内のどのPCからでも、他のすべてのPCの状態を知ることができる。さらにリモートで他のPCのウイルススキャンもできるため、個人で複数台のPCを管理するユーザーにとっては、セキュリティ対策の負担を減らす朗報だ。

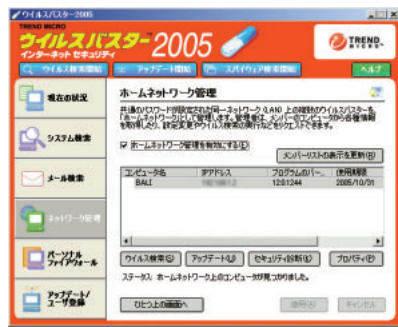
ウイルスバスター2005は、ウイルス対策だけでなく、プライバシー保護などのセキュリティ機能も充実している。ウイルス対策も、感染を防ぐことだけでなく、もしも感染してしまった場合に、ほかのPCへ被害を拡大させないための機能も用意している。今回のバージョンアップによって、機能の豊富さと利便性の高さで、一歩抜きん出たセキュリティ対策ソフトになった。(松本深志)



個人情報保護機能の設定画面。保護する項目ごとに、項目名と説明、保護対象ウェブサイト、メール、インスタントメッセージが表示される。個人情報の送信/遮断の履歴はログとして記録され、最長60日間保持される。



無線LANパトロールを実行すると、ウィンドウズ以外のOSやPDA、ゲーム機など、ネットワークに接続されているすべての機器が検出され、それぞれのIPアドレス、MACアドレスと名前を確認できる。



ホームネットワーク管理画面。2005の新機能の1つに、ウィンドウズの脆弱性を修正するパッチが適用されているかどうかを確認するセキュリティ診断機能がある。ホームネットワーク管理機能は、このセキュリティ診断機能にも対応している。

パソコンのセキュリティ状況を10点満点で評価!

# マカフィー・ウイルススキャン2005

マカフィー株式会社 URL <http://www.mcafeesecurity.com/Japan/mcafee/virusscan.asp>

マカフィーからセキュリティ対策ソフトの最新バージョンとなる「マカフィー2005」シリーズが発売された。パッケージやユーザーインターフェイスが、従来の青から、赤を基調としたものに一新された。

## ヒューリスティックスキャンによる未知のウイルスへの対策を強化

マカフィー2005シリーズの中核を担うのが、ウイルス対策ソフトの「マカフィー・ウイルススキャン2005」だ。

ウイルス対策ソフトは、ウイルスのプログラムコードが持つ特徴をデータベースにし、検索対象のファイルと照合してウイルスかどうかを判定するパターンマッチング方式が多い。この方式は既知のウイルスには有効だが、未知のウイルスは検出できない。

そこでマカフィーでは、プログラム自体が不審な動作をしていないかを検出して判定を行うヒューリスティックスキャン方式を併用している。これにより、データ

ベースのパターンのない未知のウイルスであっても検出できる。最新のウイルススキャン2005では、このヒューリスティック機能を強化して、ウイルスの検出精度がさらに向上しているという。

## セキュリティセンターで一元管理 パソコンの安全度が点数で一目瞭然

ウイルススキャン2005をインストールすると、同時に「マカフィー・セキュリティセンター」もインストールされる。これはPCのセキュリティ状態を一元管理できるツールで、セキュリティを「対ウイルス」「対ハッカー」「個人情報」「対スパム」の4項目に分類して評価する。これらの項目は、該当するセキュリティツールがインストールされているかどうかや、パターンファイルが最新版かどうかなどをチェックするもので、最低の1から最高の10まで0.1ポイント刻みで表示し、そのPCの現在のセキュリティ状態が一目でわかる。

製品名	マカフィー・ウイルススキャン 2005
会社名	マカフィー株式会社
価格(税込)	ボックス版: 5,754円 / 優待版: 4,179円 / オンライン版: 4,095円
動作環境	OS: ウィンドウズ 98 / Me / 2000 Professional/XP、ブラウザ: インターネット エクスプローラ5.5以上

マカフィーの最新セキュリティ対策製品である「パーソナルファイアウォールプラス2005」「スパムキラー2005」「プライバシーサービス2005」を同時に使用すればスコアは最高の10となるが、他社の製品でも最新のバージョンを使用すれば、スコアは十分に安全な数値を示す仕組みだ。

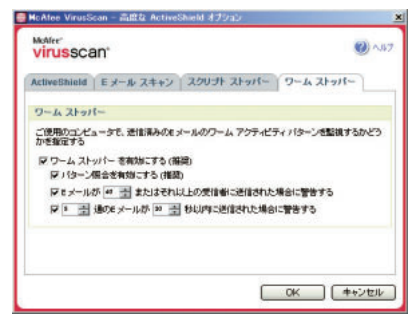
マカフィー2005では、上記の4製品を統合した「セキュリティスイート2005」という製品もあり、これだけでセキュリティ対策は事足りる。しかし、ファイアウォールやスパム対策には他のソフトを使いたいというユーザーは、自分に必要な機能だけを別々に購入して組み合わせるため、コストと自由度の点で、ほかの製品よりも有利といえる。(松本深志)



マカフィーの4種類のセキュリティ対策ソフトを管理する「マカフィー・セキュリティセンター」は、ここにはPCのセキュリティ状態が点数で表示されるので、危険度が一目瞭然。インストールされていないソフトがあればワンクリックで試用版をインストールすることもできる。



ウイルススキャンのオプション設定画面。ここに表示されている3項目をチェックしておけば、ウイルススキャンの全機能が推奨される設定で動作する。ヒューリスティックスキャンのオン/オフなどの設定をするときは「詳細設定」をクリック。



ワームの行動パターンを監視する「ワームストッパー」の設定画面。ウイルススキャン2005では、メールで自分のコピーを大量にばらまくタイプのウイルスに感染した場合の被害の拡大を防ぐために、送信メール数を自動的に監視する。検出する条件を細かく指定できるので、普段から大量にメールを送信する場合でも誤動作が防げる。

ビデオチャットしながらカメラを自由に操作!

# aim cam PC-1000

株式会社パーソル <http://www.persol-jp.com/seihin/seihin/pc-1000.html>

「aim cam PC-1000」はMSNメッセージャーやNet Meetingなどでのビデオチャットに利用できるウェブカメラだ。パン・チルト機能を備え、PCからの操作でカメラの向きを上下左右に変えることができる。また、専用アプリケーションをインストールしておく、離れた場所にあるaim camのカメラを遠隔操作することも可能だ。

## 30万画素CMOSセンサーでクリアな画質を実現

aim camはUSB接続タイプで、あらかじめ付属CD-ROMからドライバーをインストールしておく、接続するだけでカメラが自動認識される。あとはMSNメッセージャーなどを起動すれば、すぐにビデオチャットを始められる。

電源はUSB端子から供給されるのでACアダプターは必要なく、マイクも内蔵されているので、机の上がすっきりするのもうれしい。

カメラは30万画素のCMOSイメージセ

ンサーを使用しており、最大640×480ピクセルでの撮影が可能。MSNメッセージャーのビデオチャットで試してみたが、クリアな画質で発色も自然だ。薄暗いところでもはっきりと撮れ、2,000～3,000円の安価なウェブカメラとは明らかに性能が異なる。また、最短でレンズ前15ミリの撮影が可能なので、相手に書類を見せながら打ち合わせをするといった使い方もできそうだ。

1つ不満をおぼえたのは、フォーカスを合わせるのに専用アプリを起動しなければならない点だ。カメラ本体でフォーカスを手動でも合わせられるようにしてほしい。

## 専用アプリでカメラの遠隔操作が可能に

aim camの魅力はやはりパン・チルト機能を搭載しているところだろう。双方がMSNメッセージャーを使っていると、相手側のaim camを遠隔操作してカメラの向きを変えることができる。ただしウィンドウ

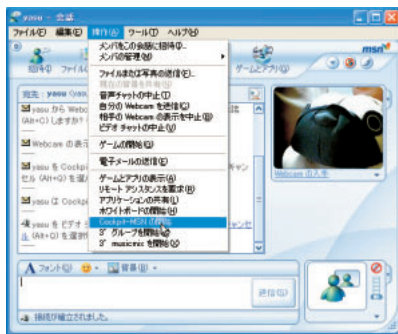
製品名	aim cam PC-1000
製造元	株式会社パーソル
価格(税込)	オープン価格(参考価格: 13,440円)
動作環境	OS: ウィンドウズ98SE/Me/2000/XP、インターフェイス: USB 1.1
主な仕様	カメラ: 1/4インチ30万画素CCD、撮影可能範囲: 水平150度/垂直110度、撮影可能距離: 15mm～

ズXPに標準で搭載されているWindowsメッセージャーでは遠隔操作の機能が使えないので、あらためてMSNメッセージャーをインストールしなければならない点には気を付けよう。

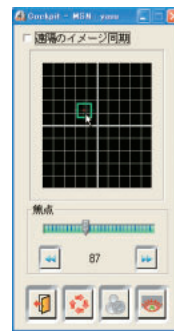
遠隔操作ができるならaim camを監視カメラとして使いそうに思えるが、遠隔操作をするための手順を考えると難しい。まず両者の間でビデオチャットを開始して、双方でaim cam専用ソフトを起動する。さらに専用ソフト上で遠隔操作を許可する操作を行って、ようやく遠隔操作が可能になる。aim camの側でユーザーによる一連の操作が必要なため、防犯カメラのような使い方は難しい。ビデオチャットをより楽しくするための付加機能と思った方がよさそうだ。(佐々木康之)



ウェブカメラとしては大きく、液晶ディスプレイに取り付けるのは無理。PC上からカメラの向きを上下左右に動かせ、可動範囲は水平が150度、垂直が110度。なお、向きや焦点を手で直接変えることはできない。



相手側のaim camを遠隔操作するには、MSNメッセージャーでビデオチャットを開始して、メニューから専用アプリ「Cockpit-MSN」を起動する。さらにカメラを接続した側で遠隔操作を許可しなければならない。遠隔操作をするにはいくつか手順をふまなければならない、監視カメラとして使うのは難しそうだ。



カメラを制御する専用アプリケーション。格子状の座標平面上にあるアイコンをドラッグすることで、カメラの向きを操作する。画像がぼやけているときは「焦点」のスライダーを左右にドラッグして調節する。

ローカルドライブとして使える高速ネットワークHDD

# HDH-UL250

株式会社アイ・オー・データ機器 <http://www.idata.jp/prod/storage/hdd/2004/hdh-ul/>

HDH-ULシリーズは、Ximeta社の「NDASテクノロジー」を採用しており、LAN経由で接続しているにもかかわらず、あたかも自分のPCに直接接続しているローカルドライブのように扱える外付けHDDだ。今回取り上げるHDH-UL250は同シリーズでは最大容量となる250Gバイトのモデルで、このほかにも120G/160Gバイトのモデルがラインナップされている。

## 独自の技術でLAN経由でありながら高速読み書きを実現

NDASテクノロジーとは、LANで通常使われるTCP/IPというプロトコルではなく、オーバーヘッドの少ない独自のプロトコルで直接データを送受信して、高速なディスクの読み書きを可能とするものだ。ただし安定してディスクの読み書きをするためには高速なネットワークが必要となり、帯域が不足すると転送エラーとなる可能性がある。開発元によれば、54Mbps以上の帯域を想定しているため、802.11bや

10Base-Tでは動作保証外となる。

HDH-UL250を使うには、LANに接続してから付属のCD-ROMからユーティリティをインストールする必要がある。独自プロトコルのためIPアドレスなどの設定が必要なく、初期設定はいたって簡単だ。インストール後はローカルなドライブとして見えるため、ネットワークドライブでは利用できない「ごみ箱」や「システムの復元」などが利用でき、「デフラグ」「フォーマット」も可能だ。

HDH-ULシリーズにはUSB端子も搭載されており、一般的なUSB接続の外付けHDDとしても使える。高速なUSB 2.0に対応しており、LAN接続ではどうしてもパフォーマンスが出ない場合にはUSB接続に切り替えられる。

## 共有目的ではなく増設目的に適したネットワークHDD

HDH-ULには最大で8台のPCから同時に接続できるが、ファイルの排他制御は

製品名	HDH-UL250
会社名	株式会社アイ・オー・データ機器
価格(税込)	41,790円
動作環境	OS: ウィンドウズXP/2000/Me、インターフェイス: USB 1.1/USB 2.0/100BASE-TX
主な仕様	外形寸法: 49.0 x 193.9 x 174.0mm、容量: 250Gバイト、ドライブ回転数: 7200回転/分

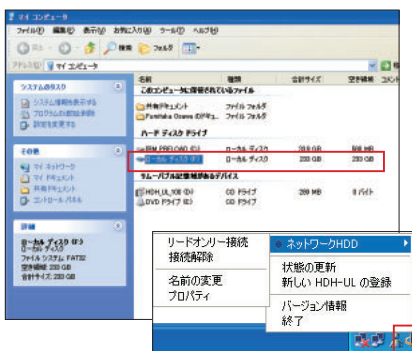
OSやアプリケーションに依存する。つまり同じファイルに複数のPCが同時にアクセスした場合、ネットワークドライブならば警告メッセージが出るが、HDH-ULの場合は何も出ないこともある。このため気が付かず同じファイルを皆で上書きしてしまうことも起こりえる。またウィンドウズMeからの書き込み可能な設定にすると、ほかのPCからは読み取りしかできなくなるという制限がある。

こういったことから、HDH-ULはLAN接続ではあるものの複数のユーザーで共有するネットワークストレージとしてではなく、USBポートの代替としてLANポートを使う外付けHDDだと考えるべきだろう。

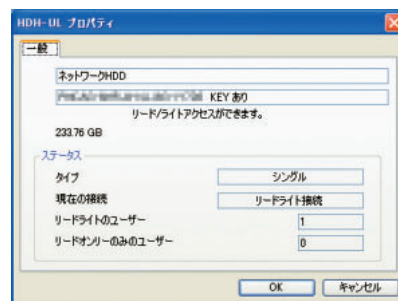
(大澤文孝)



外観はアイ・オー・データ製のほかの外付けハードディスクドライブと同じ筐体。ファンを使用していないため、動作音はHDDからのものだけになる。



ハードディスクはローカルドライブとして認識されている。出荷状態ではFAT32でフォーマットされているが、NTFSでフォーマットし直すこともできる。HDH-ULへの接続や取り外しはタスクバーのアイコンから行う。このアイコンはアクセスランプとしての機能もある。



プロパティ画面では、ほかのユーザーがアクセスしているかどうかや、書き込み可能なモードかを確認することもできる。独自プロトコルであるため、IPアドレスの設定は必要ない。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)